

高・大・一般 漢字（行書）

平形 精逸

李柏尺牘①



（想是）到也



（参考）

〈解説〉

二十世紀初頭のスウェーデンの探検家に続き、西本願寺の第二十二代門主である大谷光瑞が探検隊を組織しました。その一員である瑞超が、新疆ウイグル自治区の桜蘭で、「李柏尺牘稿」を発見しました。

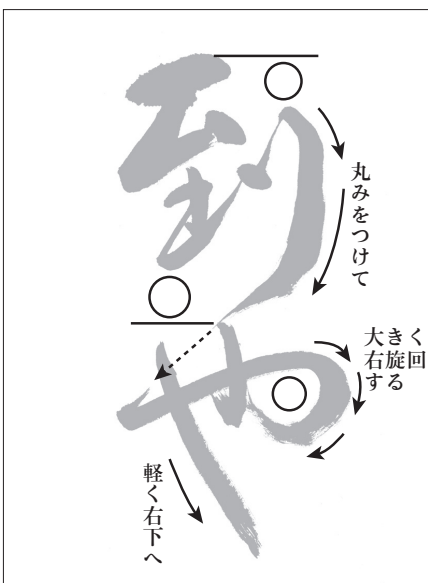
なお、李柏は盛唐の詩人「李白」とは別人なので注意しましょう。「牘」とは長方形の木や竹の札のことで、中国ではかつて長さが一尺程度の牘に文字を書いて「書簡」としたこと、「尺牘」とは漢文で書かれた手紙のことをいいます。ちなみにわが国の仮名で書かれた手紙は「消息」、漢字の手紙は「書状」として区別されています。また、「稿」は「草稿」ともいいます。下書きのことです。

この尺牘稿は、東晋時代に李柏が焉耆王にあてた書簡で、字形は古朴で右下にのび、転折部分のさらりとした運筆が特徴です。

〈学習上の留意点〉

「到」：偏より旁がかなり下がっているのが印象的です。「土」は「縦↓横↓横」の順で書きます。立刀の最終画は左下に向かって丸みをつけます。

「也」：一画目は大きく右旋回し、最終画は軽くしています。



高・大・一般 (毛筆・硬筆)

西城 研

許容の書き方について

月刊「書写書道」では、中学生以上の楷書の課題は許容体で書かれています。今月は作品や筆耕物などさまざまな書式で、字体の統一や調和をはかることを目指して、許容の書き方を学習しましょう。

小学校の書写の教科書では、楷書は標準字形で書かれています。

しかし、古典をはじめ人々の手によって書かれてきた楷書には、標準字形と異なる書きぶりもあります。

字形(書きぶり)に違いがあっても、誤字とはならず同じ文字と認めることのできるものが、「許容の形」となります。

この許容には標準と比べ、次のような特徴・違いがあります。

1. 長短 …………… 長短 (例) 天 天
2. 方向 …………… 字 字
3. つける・はなす …………… 目 目
4. はらい・とめ …………… 公 公
5. はね・とめ …………… 木 木
6. その他(筆順変化など) …………… 糸 糸

許容の書き方は、運筆は楷書であるが、行書の書きぶりを備えたものが多くあります。小学校の楷書から中学の行書学習へ、さらには古典臨書への移行に大変有用な書き方である。

るといえます。

書き方を統一することで、より調和のとれた紙面を目指しましょう。

課題(A)は毛筆で六月の季語を許容の書き方で、課題(B)は先に挙げた項目による標準・許容・行書の書き分けを硬筆で書いてみましょう。それぞれの部分に違いがあり、行書との共通点を確認、把握して書きましょう。

※許容体も複数の書き方がありますので、今回示した書き方は一例として参考にしてください。

△提出について△

※作品に貼付する出品券欄には、毛筆には毛筆の、硬筆には硬筆の段級位を書いてください。

※提出作品は、課題(A)、(B)のどちらか一点です。

※生涯学習部での提出はできません。

課題(A) (毛筆)

△指定用紙△硬筆指定用紙(小三、小四、小五用)
△指定用具△毛筆(小筆)

水	無	月	衣	替	え
入	梅	時	の	記	念
螢	夏	至	紫	陽	花

課題(B) (硬筆)

△指定用紙△硬筆指定用紙(小三、小四、小五用)
△指定用具△硬筆用ペン、サインペン、ボールペン、万年筆、鉛筆

無	風	夜	日	実	業	来	終
無	風	夜	日	実	業	来	終
無	風	夜	日	実	業	来	終

(長短)

(方向)

(つける・はなす)

(はらい・とめる)

(はねる・とめる)

(他)